

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第六十六話 「氷川神社の昔」

宮司さんのお話し（語り）

（要約文）

私は、昭和十六年に新冠に宮司として赴任してきました。当時は、北海道長官から辞令を受けました。以前は宮司のことを社司と言っていました。氷川神社は、江戸時代の文久元年に建てられた歴史ある神社ですが、まだ結婚していない若い私が宮司としてここに来たわけです。昔は何もなく本当に不便だった。除雪、草むしりは全部手作業でやっていました。

氷川神社は新冠全体の守り神、総鎮守となります。新冠で馬頭祭や社日祭があるときには、私が地域に行ってお参りをします。滑若（今の泉）など遠くへ赴くときは、バスなどの乗り物はなかったもので、荷馬車で行ったものです。昔、氷川神社のお祭りはとても盛大でした。相撲大会もやっていて、優勝旗も神社で授与していました。露店商もたくさんいて、三十店以上は出ていました。氷川神社というのは、東京の方にはいくつもありますが、実は北海道では新冠だけなのです。御神体は鏡ではなくお札です。由緒記に記されていますが、文久元年の設立された当初は、彫刻を施した仏像をお奉りに

なつたそうです。それがいつからか御札が御神体となったわけです。お祭りのときに御神体を動かしますが、そのときに御神体のまわりに白い布を囲って御神体そのものを見せないようにします。これは衣脇と言っていて、他の人に見せないために使うものです。今でも神輿をする際に使っています。

戦後からは、結婚式を頼まれることが多くなりました。神社、町民センター、ホテルでも行います。その他、七五三や厄払い、車のお払いなどがあります。家の建て前も多いですよ。このようなお払いは大安の日が多いので、一日に何件も行う場合があります。その他、安産祈願や合格祈願など何でもやりましたよ。以前は、様々な場面で神社を利用していましたが、最近はだんだんと変わってきましたね。



氷川神社での相撲大会（昭和30年代）

大切な「日常」のために私たちができること。

～消防団員募集～

あなたの想いで、守れる街がある。
あなたの想いで、救える命がある。
あなたの想いで、深まる絆がある。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
3月	1件（2件）	24件（29件）	
6年1～3月	1件（2件）	76件（75件）	
交通事故発生状況		（ ） かつこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
3月	0件（1件）	0人（0人）	0人（1人）
6年1～3月	0件（1件）	0人（0人）	0人（1人）

人のうごき

（令和6年3月末現在）

人口 5,106人（前月比 - 29人）
男 2,544人（前月比 - 21人）
女 2,562人（前月比 - 8人）
世帯 2,817世帯（前月比 + 5世帯）

戸籍の窓

2月21日～3月20日までの届出分（敬称略）

●おくやみ申し上げます

山田 祐三 87歳 高江
福澤 順之信 88歳 節婦町
中村 克夫 93歳 古岸
幸山 豊 86歳 太陽

☆広報に掲載してほしくない方は届出のとき、町民生活課町民生活グループ住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係
☎ 0146・47・2112

町公式ホームページ



町公式フェイスブック

